

専大ベンチャービジネスコンテスト

第16回専大ベンチャービジネスコンテストのプレゼンテーション大会が11月18日、生田キャンパスで開催され、麻生萌泉さん(経済1)が最優秀賞である鳳賞に選ばれた。今回初めて専大附属高校(東京都杉並区)の生徒が参加し、地方と都会の学校をビジネスでつなぐ「BtoS」を提案したチーム(代表11藤原一徹さん・文4、7人)が育友会長特別賞を受賞した。

鳳賞に麻生さん

「Share Kitchen」を提案



堂々とプレゼンする麻生さん

ビジネスプランを競う同コンテストに、今回は52組が応募。専大附属高校の1チームを含む12組が書類審査を通過し、プレゼンテーション大会に臨んだ。

鳳賞の麻生さんは高級調理器具を備えたスペースを提供する「Share Kitchen」を提案した。プランはモノや場所を共同利用することで経済活動を促す「シェアリングエコノミー」と、実際に商品を使ってもらい消費者調査などを行う「テストマーケティング」を合わせたもの。パスタマシンや高級オーブンなどがそろったキッチンを貸し出し、料理教

室やホームパーティーに利用してもらうサービスだ。

遠山浩(経済学部教授)、池本正純(経済学部教授)、本学卒業生の起業家ら13人の審査員を前に、麻生さんは「賞金を元手に学生起業を目指します」と力強く語り、プレゼンを締めくくった。

審査員からは「ポジションマップを用いて自社の優位性を示す場合、提案を受ける企業の目線で項目を設定した方がよい」といったアドバイスに加え、「場所を選ばずどこでも実現できる」など高い評価を受けた。

「料理が苦手な自分の願望を形にした」と話す。

自身の地元である神奈川県伊勢原市の観光プラザを提案した北條ありさん(経営1)と、パッケージ買いコスメに特化したコスメ検索アプリ「イション」を提案した豊田留美さん(ネット情報2)が入賞した。そのほかの入賞者は、専大ホームページに掲載している。

専大附属高生が初参加

育友会長特別賞

ベンチャービジネスコンテストに初参加し、2位に当たる育友会長特別賞に輝いた専修大学附属高校。キャリア教育に力を入れており、同高の選抜科目で専大生5人が指導に協力している「チーム作り講座」から、5チームがエントリー。このうち1チームが予選を通過し、プレゼンテーション大会に臨んだ。

地方の農業高校や商業高校がつくった加工品や生産物を、都会の私立高校で販売するためのマッチングビジネスを提案。プレゼン大会には1、2



高校をつなぐマッチングビジネスを提案した附属高校の4人

年4人が参加し、「学校PRとキャリア教育を」と緊張しながらもきは

編集作業に取り組むゼミ生



と発表し、「高校生が作るものを高校生が売るといっただけでワクワクしませんか」と問いかけると会場から大きな拍手が湧き起こった。

表彰式で東平豊三育友会長から賞状を贈られたメンバーは喜びと驚きを

隠せない様子で「ここで終わりにせず、講座のほかに受講生や後輩にも広げて来年の挑戦につなげたい」と笑顔をみせた。

文学部小峰直史ゼミ(学習ファシリテーション論)から「チーム作り講座」に参加している藤

原一徹さん(文4)は「講座で最初は戸惑っていた高校生たちも、調べる力や対話能力がつき、自らの考えでさまざまなことを提案するようになった」と話す。

「Sカレ」運営に奔走 商・奥瀬ゼミ

マーケティングを学ぶ全国の大学ゼミ生対抗の商品企画コンテスト「Sカレ」の秋の大会が10月8日、生田キャンパスで開催され、商学部奥瀬喜之がゼミ生が運営に奔走した。

今年のSカレには22大学26ゼミの3年生が参加。9チームの商品企画をFace bookで公開し秋の大会で発表する。

まとめ役となる学生委員長を丸山健太さん(4年)が担当した。

奥瀬ゼミは大会参加3年目で運営は初めて。丸山さんは「大規模の大会



学生スタッフを務めた奥瀬ゼミのメンバー

を運営したことはなく、手探りだった。活動を通じて感謝の気持ちが大切だと再認識したと話す。

ゼミに入ったばかりの2年次生は運営の傍ら、

他大学のゼミ生の様子を見ることができ「刺激を受けたのではないかな。今後のゼミ活動の励みにしてほしい」と河田さん。

今大会には奥瀬ゼミの3年次生15人が5チームに分かれて商品企画を発表した。

「宝島」の3曲を演奏したII写真。昼食を取る学生たちはしばし箸を休め、軽やかなブラスの響きに聴き入った。同研究会次期代表の小久保諒さん(経済3)は「私たちが楽しんでいこうと思えば楽にも伝えようと思えば演奏した」と話した。

吹奏楽研究会は9月に開催された東京都吹奏楽コンクール(入場無料)のミニコンサートが、11月15日、生田キャンパスのアトリウムで開催された。メンバー30人が登場し、「シング・シング・



吹奏楽研究会は9月に開催された東京都吹奏楽コンクール(入場無料)のミニコンサートが、11月15日、生田キャンパスのアトリウムで開催された。メンバー30人が登場し、「シング・シング・

文・川上ゼミ テーマは「変」

文学部川上隆志ゼミでは、学生が企画・作成した雑誌『SHOW』を毎年発行しており、第12号II写真IIが12月15日に完成した。テーマは「変」。変化するもの、

『SHOW』第12号発行



「すべての人にとって当たり障りのないものではなく、関心のある人が関心のあるページをじっくり読むような雑誌を作ろう」。そんな思いから

スタートした今年の『SHOW』。編集長の村田侑晟さん(3年次)は出版界の変化を企画した。売り上げが落ちている要因や今後を、出版界の4人にインタビューしたが「自分がいかにデータが見えていなかったか気づかされた。取材を通じて、物事の本質を見ることが大切なのを教えてもらった」と力説する。アニメの記事を担当した

た三崎友也さん(2年次)も「企画の段階で想像していたことと違う意見を聞き、取材活動を通じて視野が広がった」と振り返る。

副編集長の岡本真之介さん(3年次)は、発達障害に関するインタビューと、「みんなが違っていい」を合言葉に「みんなが違っていい」を合言葉に、制作面では誌面を構成するフォントを統一するなど改善を図った。

「取材や制作作業を通じて自分たちも変わった。『SHOW』を読んだ人が、いろいろ感じて、少しでも心に変化をもたらすことができれば」と村田さんは語る。

『SHOW』第12号は1600部発行。学内外に配布するほか、希望者にも無料で提供する。問い合わせはkaratakazemi@gmail.comへ。

「取材や制作作業を通じて自分たちも変わった。『SHOW』を読んだ人が、いろいろ感じて、少しでも心に変化をもたらすことができれば」と村田さんは語る。

『SHOW』第12号は1600部発行。学内外に配布するほか、希望者にも無料で提供する。問い合わせはkaratakazemi@gmail.comへ。